



安積開拓発祥の地 郡山市開成館

開拓者の精神を今に

郡山市開成館は、郡山市の近代史を語る上でとても重要な安積開拓と安積疏水の開さくに市民がふれられる場として、昭和四十三年（一九六八）に開館しました。
ここでは、安積開拓の中心的な役割を担った「福島県開拓掛」の事務所であった「開成館」や、そこで働く職員が住んでいた

「安積開拓官舎」、安積の大地に夢を託した開拓者たちの代表的な住宅「安積開拓入植者住宅」を復元し、公開しています。
また、「開成館」においては、安積開拓や安積疏水の歴史を解説パネルや資料などの展示で紹介し、開拓者の精神を現代そして未来に伝えていくことを目指しています。



開成館

【福島県指定重要文化財】
昭和35年(1960)3月29日指定
【近代化産業遺産】
平成21年2月23日経済産業省認定



展示の様子(1階)



展示の様子(2階)



行在所の再現(3階)



【郡山市指定重要文化財】
平成8年(1996)12月26日指定

「安積開拓入植者住宅(旧小山家)」は、明治十五年(一八八二)に松山から牛庭原(現・安積町牛庭地区)に移住した「愛媛松山開墾」十五戸の中の三戸で、当時の開拓者の代表的な住宅の形を今に残すものです。

旧松山藩士族の室崎久遠が明治政府から補助を受けて建築し、室崎が転出した後、同じ旧松山藩士族の小山宇太次が入居し、以降小山家の所有となりました。
この建物は、平成五年(一九九三)、小山家の子孫により郡山市に寄贈され、安積開拓を顕彰する上で重要であるとして移築復元されました。原野開墾に挑んだ入植者たちの厳しい生活の様子を現在に伝えています。

安積開拓入植者住宅 (旧小山家)



この建物は平成十二年(一九九九)に坪内家の子孫により市に寄贈され、郡山市制施行八十周年・合併四十年記念事業として安積開拓の歴史を未来に伝えるため、平成十六年(二〇〇四)十月に移築、一号家住宅の図面のとおり復元されました。

安積開拓入植者住宅 (旧坪内家)

「安積開拓入植者住宅(旧坪内家)」は、明治十四年(一八八二)に鳥取から広谷原(現・喜久田町)に移住した「鳥取開墾社」の副頭取であった坪内元興の住宅で、明治政府が入植者の住宅用に補助金を交付して建築させた五つのランクの規格住宅の中で、最上級である「二号家」の雛形を元に建てられました。

戦後、この指定が解かれ、住宅難の一策として市営住宅に使用されるなど荒廃した時期もありましたが、昭和三十五年(一九六〇)には県の重要文化財に指定され、同四十一年(一九六六)に補修・復元が行われ、現在は安積開拓と安積疏水の歴史を伝える資料館となっています。

さらに、平成二十一年(二〇〇九)には経済産業省が選定する近代化産業遺産に認定されました。

また、明治天皇東北行幸に際し、二度目の明治九年(一八七六)には行在所(宿泊所)として、二度目の明治十四年(一八八二)には昼食会場として使用されたため、昭和八年(一九三三)に国の史跡に指定され保存されてきました。

当時地方にはまだ洋風の建築法が伝わっておらず、地元の大工たちが苦勞の末建てた擬洋風建築(西洋風に似せた建物)の「開成館」に、人々は驚き感心したということです。

「開成館」は、明治七年(一八七四)に区会所(郡役所の前身)として建築され、安積開拓の核となる「福島県開拓掛」が置かれた建物です。その後、郡役所・県立農学校・桑野村役場などとして使用されました。

当時地方にはまだ洋風の建築法が伝わっておらず、地元の大工たちが苦勞の末建てた擬洋風建築(西洋風に似せた建物)の「開成館」に、人々は驚き感心したということです。

安積開拓官舎 (旧立岩(郎邸))

「安積開拓官舎(旧立岩(郎邸))」は、開成館と同じ時期に建てられた「福島県開拓掛」職員用官舎三棟のうちの一棟です。
官舎には「一番」から「三番」までの番号が付されており、この建物は「一番官舎」に該当するもので、開拓掛の職員として郡山に赴任し、後に開拓出張所長となつた立岩郎が使用し、払い下げを受けたものです。

また、明治十二年(一八七九)十月に開成山大神宮で行われた「安積疏水」の着工式に出席した伊藤博文内務卿と松方正義勸農局長が、この一番官舎に宿泊したと伝えられています。

昭和六十三年(一九八八)に立岩(郎)の子孫により土地建物が郡山市に寄贈され、約三年の月日を費やして復元が行われました。



【郡山市指定重要文化財】
平成3年(1991)8月20日指定

ご案内



開館時間 午前10時～午後5時
(ただし、午後4時30分までに入館のこと)

休館日 毎週月曜日・年末年始
(12月28日～1月4日まで/月曜が祝日の時は翌日)

観覧料

	個人	団体(1人につき)
一般	200円	150円
高校生・大学生等	100円	70円
中学生以下	無料	
65歳以上	無料	
身体障がい者手帳等の交付を受けている方	無料	

※平成28年8月現在 ※団体は20名以上

交通

- バス利用の場合
郡山駅西口バス乗り場から
麓山経由(大槻行・休石行)乗車
→「開成館」下車→徒歩約3分
- 車利用の場合
東北自動車道 郡山インターから約20分
郡山南インターから約30分
※駐車場(普通車で12台・大型バスで2台収容可)

ボランティアによる館内の案内を行っております。
ご希望の場合は事前にご予約ください。

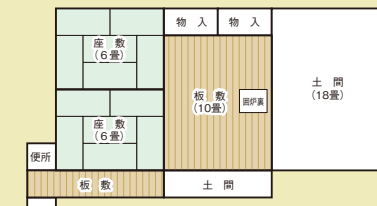
郡山市開成館

郡山市開成館

〒963-8851 郡山市開成三丁目3番7号
TEL・FAX (024)923-2157

E-mail:kaiseikan@city.koriyama.fukushima.jp

安積開拓入植者住宅(旧坪内家)



安積開拓入植者住宅(旧小山家)



敷地内は全面禁煙と
なっております。
ご協力をよろしく
お願い申し上げます。

安積開拓と 安積疏水

— 広大な原野を
実りの大地に —

明治の中ごろから急速に発展してきた郡山市は、広大な安積原野(現在の郡山市を中心とする地域)の開拓を抜きにしては語ることはできません。

この開拓は、明治六年(一八七三)、旧福島県と、地元の人たちにより結成された「開成社」とによる大槻原(現・開成地区)二帯の開墾から始まりました。

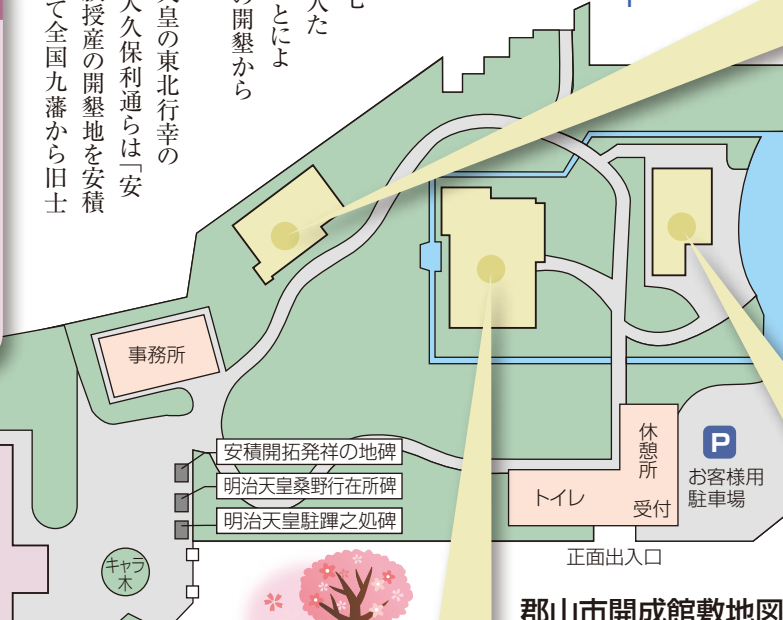
明治九年(一八七六)、明治天皇の東北行幸の際にこの地を見た政府高官・大久保利通らは「安積開拓」の有望性を認め、土族授産の開墾地を安積の地に決定し、国営事業として全国九藩から旧土族五百戸を入植させ、この開墾を推進することとなりました。

さらに、この「国営安積開墾事業」ともに明治政府初の国営農業水利事業として、猪苗代湖の水を安積地方へ供給するための「安積疏水開さく事業」が進められました。

開成館

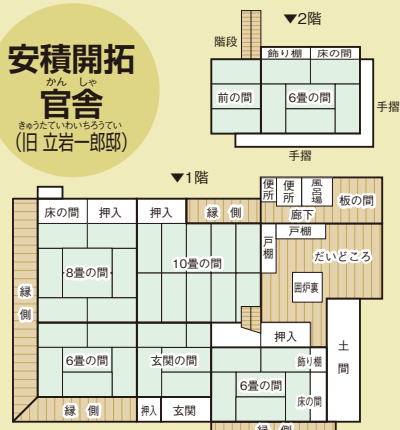


開成館の
展示のご案内
はこちらです。



郡山市開成館敷地図

安積開拓 官舎 (旧立岩一郎邸)



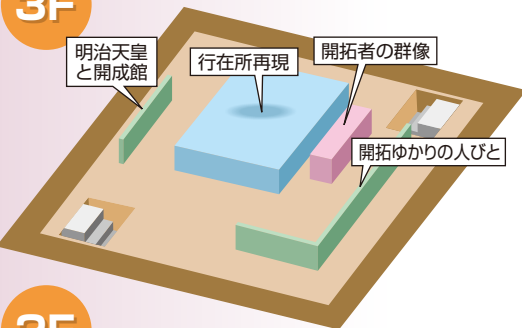
安積開拓発祥の地

「郡山市指定史跡」
平成四年(一九九二)三月二十一日指定

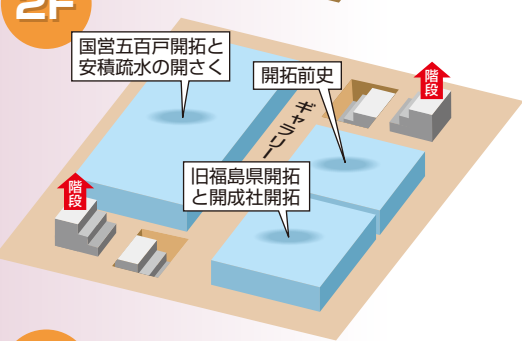
開拓事務の中心的役割を担った「福島県開拓掛」の事務所が置かれた「開成館」が建てられたこの地は、「安積開拓発祥の地」として、市の史跡に指定されました。

展示のご案内

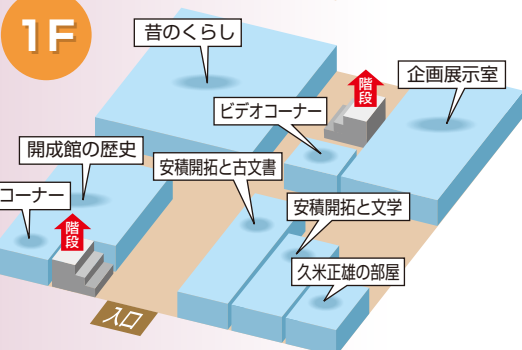
3F



2F



1F



日本遺産認定

猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー
『未来を拓いた「一本の水路」
—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—』が、平成28年4月25日、日本遺産に認定されました。
郡山市開成館は、ストーリーの構成文化財になっています。

郡山市 日本遺産

（紙）リサイクル可

VEGETABLE INK

ミラクス 23C FSC® C010187

FSC® 認証 森林資源に由来する木材・紙はFSC® 認証を使用しています。